

### Terras Irradiant

奨励	中川 好幸 [なかがわ・よしゆき]
奨励者紹介	同志社小学校宗教科教諭 日本キリスト教団京都西田町教会牧師

「あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。もはや、何の役に立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。また、ともし火をともして升の下に置く者はいない。燭台の上に置く。そうすれば、家の中のものをすべてを照らすのである。そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。」

(マタイによる福音書 5章13—16節)

### スクールモットー

学校にはそれぞれ、創立の理念、スクールモットーというものがあります。インターネットで検索してみると、たとえば、「質実剛健」「文武両道」とかあまり特徴のないようなものが見られます。私学の場合、他校の例で申し訳ないのですが、関西学院が掲げられているのは、“Mastery For Service”です。奉仕のための練達、つまり社会や人のために働けるようにしっかりと自分を鍛えなさいということです。神戸女学院は、愛神愛隣“Love thy God, love thy neighbor.”です。それぞれが、そのキリスト教的背景を十分に発揮されているのだと思います。次に、同志社とゆかりの深いアーモスト大学ですが、そのスクールモットーは、“Terras Irradiant”「彼らが世に光を与えられるように」であり、これを本日の奨励題としました。マタイによる福音書5章14節にある、「あなたがたは世の光である」からきています。自分たちによって社会が照らされるように、そのように学びなさいということでしょう。アーモスト大学のスクールシールを参考に、同志社大学のシールが作られ、そこには、“Veritas Liberabit Vos”「真理はあなたたちを自由にする」(ヨハネによる福音書8章32節)と記されています。確かに同志社にとって自由は大変大事なものですし、真正(誠)の自由とは、人の内面にかかわる、強いられるではない自由を表していますが、同志社のスクールモットーとして、現在は、「良心教育」の方がふさわしいのではないかと考えられます。と言いますのは、同志社大学のホームページでは、自由主義、国際主義、キリスト教主義はすべて「良心」という上位概念の元にあると定義されているからです。いずれにせよ、同志社が育てなければならぬ人物とは、良心が全身に溢れ、社会に貢献できる人物ということになるでしょう。

### 新島の触れた精神・教会

新島襄は、フィリップス・アカデミー、アーモスト大学に学び、それぞれのスクールモットーに触れました。フィリップス・アカデミーのそれは“Non sibi”「人のために(自分のためではなく)」であり、アーモスト大学は先ほどの世の光です。新島は、おそらく、一人の日本人を全力で助けてくれた周りの人間の姿、そして、この二つの学校のスクールモットーから、多くのことを感じたのだと想像できます。

同志社小学校では、6年生の時に、アーモストとボストンに8泊10日の修学旅行に出かけます。その目的は、語学の研修というよりは、新島が暮らしたアーモストに身を置き、肌でその時のことを感じるためです。ジョンソン・チャペルでの礼拝、新島も暮らしたアーモスト大学の寮での宿泊、リタイアメントセンターでの高齢の方との交流。ボストンでは、ハーディー家の墓前の祈りの時、そして、ハーディー家が会員であったボストンの会衆派教会の礼拝への参加など、新島が体験したアメリカのさまざまなものを追体験する旅です。会衆派教会の性格とは、運営がトップダウンではなく民主的であることであり、それぞれの教会が他の教会の縛りを受けることのない、各個教会という姿勢も大きく、このことが、新島が後に教会の合同運動に反対した大きな理由でしたし、同志社全体もこの会衆派教会のあり方に影響を受けていることは否めないと思います。

### 同志社小学校の校歌

さて、私が勤務しています同志社小学校が大切にしているもの、良心の教育を目指すことにおいて、大きな指針となるものは、その校歌に表れています。この歌詞は、谷川俊太郎さんの手になるもので、開校前に「良心」というものをテーマにしてほしいというブリーフィングがあったのでしょうか。この歌詞に込められたものを見ていただきたいのですが、特にすばらしいところが2箇所あります。それは、

「ひとのいたみ かなしみみつめ」

「えらいひとになるよりも、よいにんげんになりたいな」

というところです。

特に、良心という観点からは、「えらいひとになるよりも、よいにんげんになりたいな」が大変重要なのですが、ここから僕自身は、「あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり」(マタイによる福音書20章26節)なさいと、この部分を関連させて考えています。この歌詞の中で「えらいひと」というのは、いわゆる「えらいひと」という括弧付きのえらいひとだと思います。本当にえらいひとは、よい人であるわけで、歌詞の中の「えらいひと」とは、本当にえらい人ではないということでしょう。谷川さんがこの歌詞にどうやってたどり着かれたのかというのは、昨年に小学校が開校10年目ということで、お招きした時に伺うことができました。ジョニー・デップ主演の「ギルバート・グレイブ」という映画から着想を得られたということでした。父親が失踪した後、長男としてジョニー・デップ扮するギルバートが、家族を支えています。母親は家にこもりきり、出られないくらい太ってしまい、弟のアーニーは脳に障がいをもっている、自分が支えないとどうにもならないということです。ですが、ガールフレンドができ、彼の心は少しずつ変わっていきます。そしてある日、あなたの望みは何か、とそのガールフレンドがギルバートに質問します。その質問に対して、母親にはエアロビクスクラスを、弟には新しい脳をとか、家族のためのことを言うので、ガールフレンドが、じゃああなたは何か望みなのかと聞きます。その質問に対する答えが、「よい人間になりたいんだ」「I want to be a good person.」というセリフで、ここから校歌の着想を得られたそうです。家族のために何かをしようと考えているギルバートが、そう願いながらも、自らはよい人間でないという認識があり、それでもそうなりたいと望むこと。他者のことを考えて何かを行うこと、よい人間になることが彼の中でつながっている。そのことを大切に思いました。

### 同志社全体として「良心探求ウィーク」

新島がこの同志社という学校に求めたものは、人のために働ける人材を育てることであり、それこそが良心教育ということではないかと思っています。同志社創立を覚えるこの時、同志社全体としてこの良心を改めて問い直したいと思っています。

また、Law School設立の際のエピソードも、同志社における良心というものを非常によく表していると思います。大谷先生の考え方に負うところが大きいと思いますが、Law Schoolを同志社としてはどのようにアピールするのかという時に、司法試験に合格する人数に重点を置くのではなく、良心をもった裁判官や検察官を育てることが、同志社がLaw Schoolをもつ意味であると表明されました。司法試験合格だけを他大学が強調する中、これはとてもすごいことであると感じました。このように、同志社の各学校で、それぞれの段階で、またそれぞれのアプローチで良心教育というものを進めていくことが必要だと思います。幸い、今年度から全同志社で「良心探求ウィーク」が設定されました。小学校では、その週間、朝の礼拝で新島襄と良心にかかわることをテーマに奨励があり、それがクラスでの話し合いのきっかけにも用いられていました。また、人権に関する授業を全クラスで行いました。

良心と自由の関係なのですが、真正の自由とは、外からルールで決められて仕方なく行うということの対極にあり、私たちの中の内なる声の促しこそ、人の自主自律を支える良心ののだと思います。この同志社の創立を記念する礼拝において、私たちはまた改めて、学園として大切なものを共有していく必要性を感じています。